食卓で使う今月の作物

ラディッシュ Radish

小型のダイコンの仲間で、「二十日ダイコン」とも呼ばれます。手軽に作れて形や彩りも豊富なので、サラダやピクルスに重宝します。

栽培のポイント

①時期をあまり選ばず栽培できます

真夏と真冬の栽培は難しいですが、トンネル被覆をすれば、冬どりや春どり栽培も可能です。プランターや露地栽培の場合は、3月中旬以降が種まき適期です。

②やわらかく美味しく作るには

肥料分が多く、水はけのよい土を好むので、葉色を見ながら即効性の化成肥料や液肥を少量ずつ使用しましょう。

③不良根の原因は

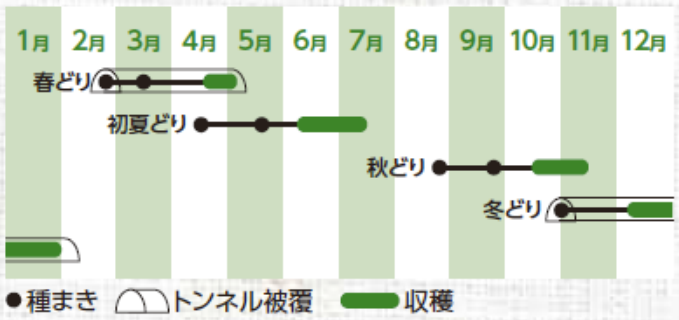
間引きが十分できず株間が狭すぎたり、乾いた所へ急にたくさんの水を与えたりすると、根の形の乱れや割れの原因になります。また収穫が遅れると、割れたり「ス」が入ったりするので、適期収穫を心がけましょう。

品種例
「コメット（赤色）」「レッドチャイム（赤色）」「アイシクル（白色）」など

さっと使える便利な野菜です。葉っぱも栄養が豊富ですよ。

神飾営農生活センター
営農指導員
平田 靖尚

栽培カレンダー



いまさら聞けない農作業のコツ!

有機質肥料と化学肥料

肥料の種類は、製造法や成分によって分類されています。「有機質肥料」と「化学肥料」とは、原材料の違いによる分け方です。

●有機質肥料

食用油や食品加工場から出る副産物を原料とする肥料です。一般的に複数の成分が含まれていて、土壌中の小動物や微生物によってゆっくりと分解されるため、効果が長く持続します。土と混ぜるようにして使い、施用後1～2週間おいてから作付けします。

●化学肥料

鉱物などの自然物を原料として、化学的処理を経て作られた肥料です。なかでも成分が1種類のみの「単肥」は、不足している成分をピンポイントで補うことができます。土壌微生物の分解を介さないので速効性があり、追肥に向いています。

これ以外にも、有機質肥料と化学肥料を混ぜたものや、ゆっくりと肥料が効くようにした緩効性肥料など、色々な種類があります。それぞれの特徴を知って、上手に肥料を使いこなしましょう。

キリトリ線に沿ってお切りください

1 畑の準備

●畑全面に元肥をばらまいて、20㎝内外の深さによく耕す。

●1㎡当たり、完熟堆肥4～5握り、油粕、化成肥料各大さじ5杯をまく。

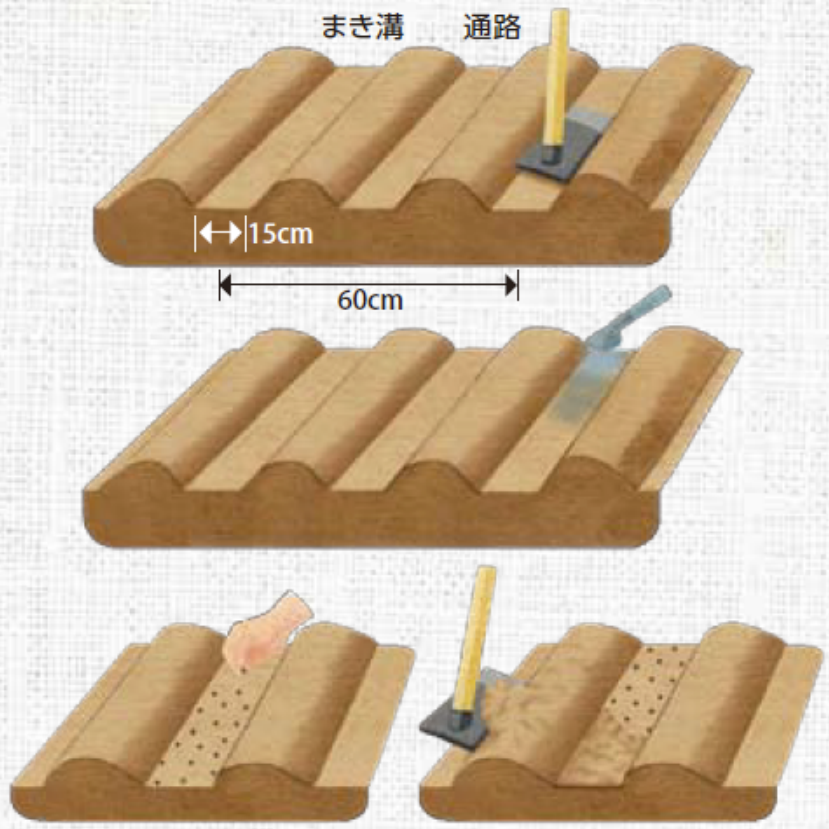
2 種まき（溝まき）

●鍬幅よりやや広めの溝を掘り、底辺をていねいにならす。

●じょうろの蓮口で溝面一杯に潅水する。はみ出すと覆土しにくくなるので注意。

●種の間隔が2㎝くらいになるよう、まんべんなくまく。

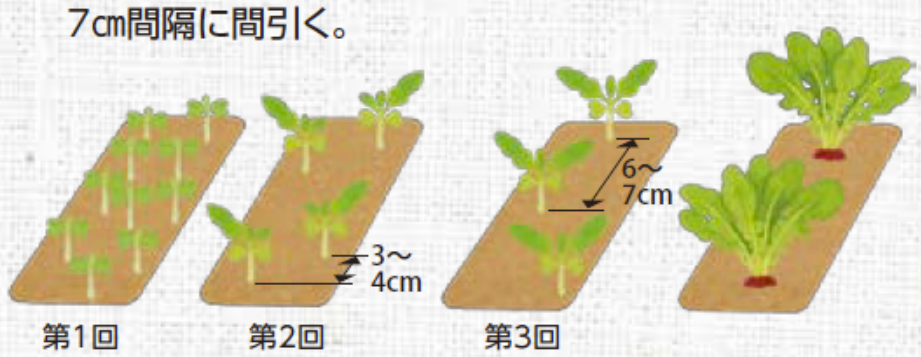
●1㎝厚さに覆土する。その後、鍬の背で鎮圧する。



3 間引き

●発芽ぞろいのころ、特に込み合っているところを間引く。

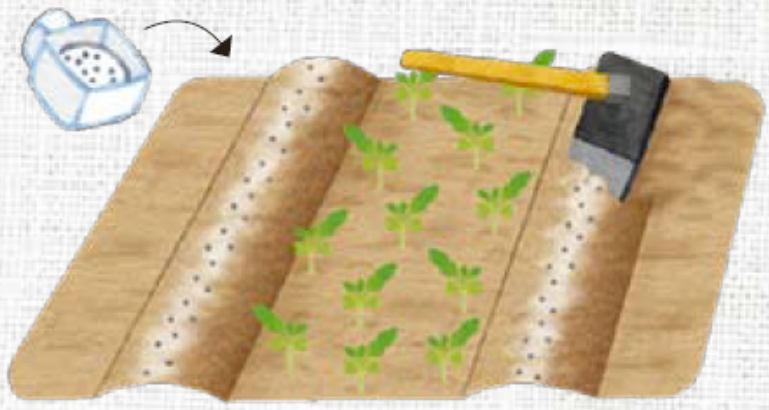
●本葉1枚のころ、3～4㎝間隔に、本葉3枚のころ6～7㎝間隔に間引く。



株間を十分に与えると、根がよく肥大する

4 追肥

●溝の長さ1m当たり、化成肥料を大さじ3杯溝の両側にまき、鍬で土と混ぜる。



5 収穫・利用

●ピクルス:酢と水を3:1で合わせ、塩、砂糖、粒コショウ、ローリエ各少々を加えて沸騰させたピクルス液に、好みの野菜と漬け込む。

●生のまま:マヨネーズとケチャップを合わせたオーロラソースや、サワークリームに刻みパセリを加えたものなどを合わせて。

とりたてをそのまま丸かじりに

不良根の原因

キリトリ線に沿ってお切りください